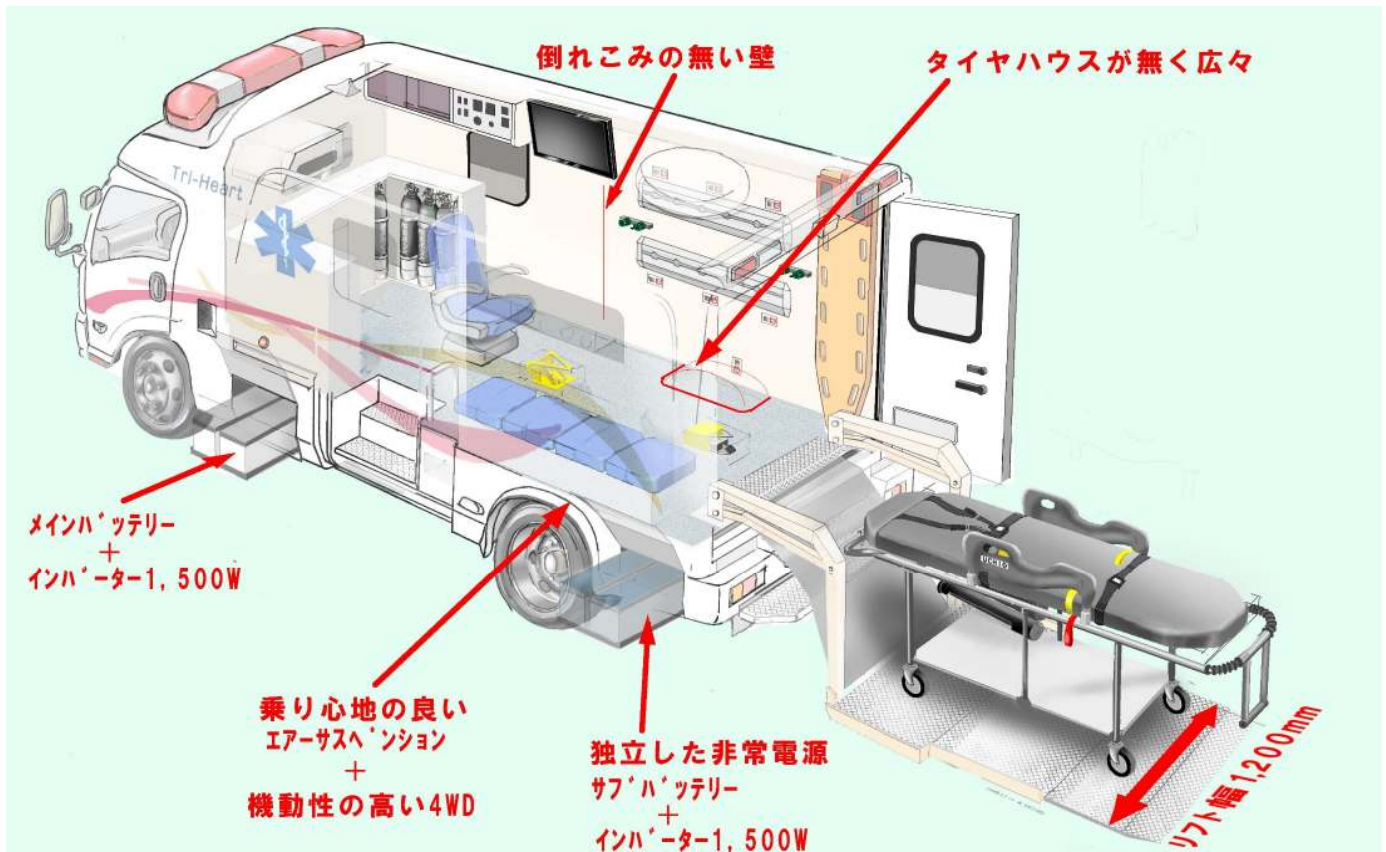


以下は、(株)赤尾が提供する、ECMOカーの解説です。
これからMobile ECMOを始められる方々の参考になれば幸いです。



※記載内容は、2021年1月時点での実績内容を元に作成しています。
※赤尾のECMOカーは、年々進化しております。記載以外の装備については別途ご相談下さい。

1. 幅の広いリフトを備えている



理由: ECMO以外にも様々な搬送に対応できるように

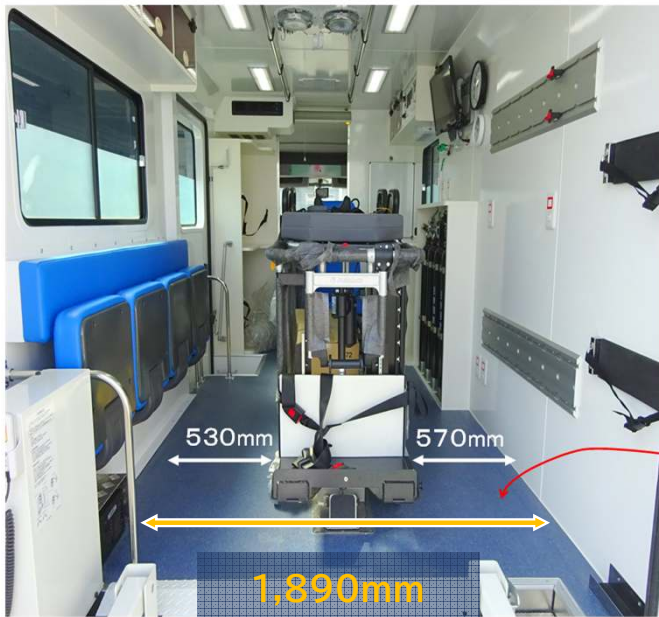
ECMOカーだからといって、いつもMobile ECMOでの運用とは限りません。
その他のECPR機器を使って搬送することだってあります。

病院様によってはNICUやDMATでも使いたいなど、さまざまなニーズに応えられる仕様にする事で、この1台の活躍の幅も広がります。

そんな時、ストレッチャーの脇に、更に50cm程の余裕がある、ワイドなリフトは、IABPをカートごと搭載できるなど何かと便利です。

車体全幅： 2,005mm (ボディ部分)
リフト幅： 900~1,200mm を装備可能です。

2. タイヤハウスが無く、床面に広い活動スペースがある



理由: スタッフごとの活動エリアを確保

ECMOカーには5~6人のスタッフがチームとなって活動します。
車内に於いて各自の活動エリアがしっかり確保できると、担当業務の分担が明確化し処置への集中が出来ます。
当たり前ですが床に出っ張りが無い方が、活動し易いです。

ECMOコンソールをチェックする人、
呼吸器をチェックする人
シリンジポンプをチェックする人・・・などなど

様々な機器を積載可能なECMOストレッチャーの前後左右にスペースを設けています。
万一の搬送中インシデントにも、十分なスペースがあることでリカバリーがし易くなります。

※機能とは関係ありませんが、内装壁面が白色のため仕上がりの室内が明るい感じになります。



←マイクロバスには、大きなタイヤハウスがあります

3. 悪路に強い4WDの設定

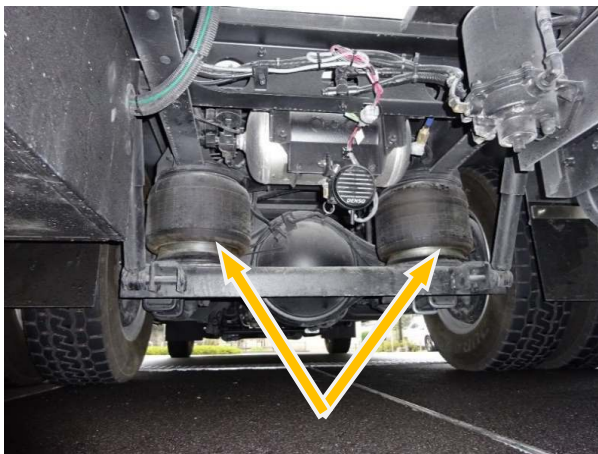


理由: 雪道や悪路でも患者は待てない

Mobile ECMOには代替え搬送手段がありません。
Air Ambulanceは離島などを除き、推奨されません。(英国)
赤尾のECMOカーは、4WD車も設定しています。
雪でもECMOセンターから出場出来るようになります。

DMATカー兼用で使われる場合にも、被災地の悪路走破性の高い4WDを推奨します。

4. エアサスペンションを装備



理由: 乗り心地を確保

まだECMOカーの導入数が全国的に少ない現在、ECMO搬送は、長距離に長時間になることが多いです。
向かう先が、ECMOセンターから遠いエリアになることもあるからです。

エアサスペンションは、長距離搬送時の患者負担、医療スタッフの疲労を軽減します。

5. ‘安定した’大容量電力



理由: ECPRが安定して稼働できるために

電気トラブルはECMO搬送中の最大リスク因子になります。

病院に非常電源があるように、赤尾のECMOカーにはバックアップ電源を設けています。

電気トラブルがバッテリー上りだけとは限りません。交通事故によってバッテリーを物理的に損傷されてしまう可能性もあります。なので前後に分散して設置しています。

各バッテリーにそれぞれインバーターを設けています。

- ・メインインバーター：1,500W
- ・サブインバーター：1,500W

赤尾のECMOカーでは出力の安定するサブバッテリーを採用しております。

非常電源を設置するには別の方法もありますが、発電量が不安定になったり、大きな音や振動が出てしまう方法は、相応しくないと考えております。

※片道2.5時間よりも長い搬送距離を想定される場合や、水槽も運用される場合は、別途ご相談下さい。



6. 豊富な実績



理由: 期待に応えるため

ECMOカーに限らず、ドクターカー、救急車の制作は、単なる車の改造や組立て業務ではありません。

そのため、車や機械工作の知識だけではなく、医療機器や医療活動、横たわる患者やその家族、ドクターカーの運用方法などを理解できる総合的な知識と経験、心が必要です。

医療従事者の言外の言葉までを汲み取り、要望される‘カタチ’ではなく、期待通りの‘活動の舞台’を提供することが大事です。その上で「提案力」があって期待に応えることが出来ます。

弊社は、これまで日本のECMOカー4台全てを制作してまいりました。その4台それぞれに完成までのドラマがあり、多くの医療従事者から沢山のことを学ばせて頂きました。ECMOカーの知識と経験は、弊社が国内一と自負しております。

※車両Tri-Heart自体は、28年もの実績があります。

2021年は、ECMOカーの更なる発展形を現在製作中です。

● AKAO ECMOカー 相談窓口

株式会社 赤尾・特需部 救急担当まで
東京都千代田区外神田6-13-13
03-3832-2204

※マスコミの方もこちらに連絡下さい